大学1年生の
子を持つ保護者が
激白!!

子どもの進路決定に私はこう関わった！

進路を決めるのは子どもたちですが、それを見守り、支える保護者も大変です。
大学1年生の子どもを持つ4人のセンパイ保護者が自身の体験談を語ってくれました。
アイドルに夢中、家ではゲームばかり、親の期待と裏腹、寡黙すぎる…
さまざまな状況を乗り越えた今だから言えることも。子どもの本音も要チェック！

取材・文／太田知子　イラスト／マー関口

※記事の内容は取材をもとにしておりますが、プライバシー保護などの目的のため、一部事実と異なる記述があります。

CASE 1

アイドルにはまり、反抗的だった娘に勉強できる環境を与え、自主性を尊重

［国立大学理系学部に一般入試で現役合格した娘を持つNさんの場合］

高1の時、某アイドルに夢中だった娘。当然成績は低空飛行。でも反抗期の真っ只中でもあったので、私が「勉強しなさい」と言えば言うほど事態は悪くなる一方。悩んだ末、塾へ行かせることを決意しました。提案するときはすごーく、気を使いました。「最近勉強どう？」「別に」で1日、「良さそうな塾があるんだよ」「ふーん」で1日、「行ってみない？」と3日かけ連行。いざ通いだしたら、成績も上向いてひと安心。以来、勉強には口出しすまい、と決めました。

アイドルへの興味は否定せず進路への提案をし続けた

進路についても気がかりで1年の時から「薬学はどう？栄養学はどう？」と話を振っていました。でも本人は「空間デザインがやりたい」と言い出して。これって絶対、例のアイドルの影響なんです。その人が描いた絵の個展に行ったりしてましたから。2年の6月には文化祭のポスターコンテストに応募すると言い出し、期末テストそっちのけでポスター描きに熱中。「そんなことしてる場合？」とのどまで出かかったのをグッとこらえました。その頃は、「芸大に行きたいと言い出したら、応援できるのか？」と葛藤し、苦しかったですね。

ところが2年の9月にいきなり勉強を始めたんです。どうやら難関国立大学を第一志望に決め、建築士を目指すことにしたようなのですが、なにせ私には大事なことは絶対言わないので、よくわかりませんでした。高校の教師である主人とは「微分積分は世の中にどう役立っているのか？」とか私には「は？」な話を熱心にしていました。今思えば、父親が学問や進路への興味を上手に育ててくれていたのかも？

それから受験まで本当に勉強漬け。合格発表の日に「どうだった？」とメールしたら、「受かった」だけ。帰宅後もそっけない態度。最後まで意地でも私には本音を見せない娘でありました。

●

何かに興味を持ったり追求する姿を見せたら、たとえそれがアイドルであろうとテスト前のポスター描きであろうと、否定せずに見守ったのは良かったと思います。本当に納得する進路は、興味を持った先にしかみつからないでしょうから。

子どもはこう思っていた！

つい反抗しちゃうけど、本当は〝不満なんてない〟

なんでやたらと母に反抗したかというと、たぶん、性格の問題。母は考えずに行動し、思ったことはすぐ言うタイプ。私はじっくり考えてから動くし、本音は口にしたくないタイプ。まともに相手をすると私のほうがダメージが大きいので、つい身構えるんです。母もそれはわかっていて、嫌がることはしないので、不満って本当はありません。

母に進路を提案されたとき、ムキになって反抗したけど、本気で将来を考えるきっかけになりました。建築に決めたのは、絵が好きで、絵をかく仕事がしたかったから。国立大学を目指したのは、妥協すると勉強しなかった後悔が一生残ると思ったからです。塾に通うように言われたとき、「このままじゃダメだ」という気持ちがあり、渡りに船でした。勉強習慣がついてからは、勉強に口出ししてこなかったことも感謝しています。

CASE 2

家ではゲームばかりなのに塾は行かないと言い張る息子に不安

［国立大学文系学部に一般入試で現役合格した息子を持つTさんの場合］

息子は物静かで反抗期もなく、昔から手のかからない子でした。高校では物理化学部に入部。研究や実験に黙々と取り組むイメージが息子にぴったりでミョーに納得しました。当然理系だと思っていたら、1年の文理選択で「文系に行く。法学部で司法試験を目指す」と言い出すので、びっくり。「国語は苦手だし、理系がいいんじゃない？」と言いましたが「絶対浪人しない」と珍しく強気なので、本気だなと。

3年になると学校の自習室で勉強しているようでしたが、家ではまったく勉強せず、いつ見てもゲームばかり。受験生の緊迫感はゼロ。模試の成績表を見ると、国語が弱いのは明らかで「国語だけでも塾に行けば？」と何度か言いましたが、「面倒くさい」。飄々としすぎていて、逆に不安になりました。

「志望校も高望みしすぎでは？」と思っていました。担任の先生に相談したら、「本人の意志が固いですから」と言われ、見守るしかないと覚悟しました。

後期試験で合格するまで2カ月の長期戦に疲労困憊

結局センター試験の点数が3点足りず、前期試験は不合格。後期試験で合格しました。センター試験から後期試験の合格まで丸2カ月。「やっぱり国語が足を引っ張ったのでは」、「後期のほうが狭き門なのに大丈夫？」と一人悶々として、お肌も荒れちゃって…。職場でも心配されるほどでした。でも合格でフィナーレを飾れて感無量。その夜はお祝いに、ちょっとぜいたくなお店で食事をしました。

息子はいつになく饒舌に自分の勉強方針を語ってくれました。「塾は行かない、参考書も買わない、学校の勉強を中心に普通にやる」と決めていたそうです。「なぜそれを言わない？言ってくれれば少しは安心できたのに」と心の中で突っ込みましたが、嬉しそうな顔を見ていたら「まあいっか」と思えました。

●

子どもが幼い頃からずっとフルタイムで働き、いつも時間に追われていました。せめてもの罪滅ぼしに高校の保護者会や三者面談は欠かさず出席。私自身、穏やかな学校の雰囲気がとても好きで安心して任せられました。学校が彼を育ててくれたと思います。

子どもはこう思っていた！

お金の〝負担を減らしたくて〟自力合格を目指した

推理小説が好きで、法律に興味を持ち、「司法試験を受けて法曹界に入り、社会の役に立ちたい」というあこがれが芽生えました。親には理系を勧められましたが、気持ちは変わりませんでした。

学校は難関国立大学を目指す人ばかり。周囲の影響を受けて自分も高い目標を目指そうと決めました。塾に行かなかったのは、小学校時代の塾や私立中高一貫校の学費が高く、親に相当負担をかけていたから。大学受験はローコストでいこうと決めていました。3年になると、毎日15時から21時まで学校の自習室で勉強しました。続けられたのは仲間のおかげ。中学からの顔なじみなので、励まし合って頑張れました。

母は受験期も態度が変わらなかったのが、ありがたかった。「勉強しろ」と強く言われた記憶がありません。親にはなんの不満もないですね。

CASE 3

部活も志望校選びも肩入れしすぎて娘の気持ちは置いてけぼり

［私立大学保育系学部に指定校推薦で現役合格した娘を持つSさんの場合］

娘は中学校の時テニスでいい成績を残し、スポーツ推薦で公立高校の体育科に進学しました。朝早く家を出て深夜に帰宅する毎日で、休日は16時間テニス。勉強する時間もなかったです。でも何かに打ち込む経験は大きな財産だし、精神面も鍛えられると思い、学校の送り迎えやテスト勉強の相手など、できる限りサポートしました。

ところがテニスで思うような結果は出ず、2年になると「スポーツトレーナーになりたい」とか「理学療法士になりたい」、と言い出しました。結局、就職の大変さや学費の高さを理由にどちらもあきらめたようです。たぶん娘はその頃からテニス漬けの生活が辛くなっていたんですよね。恥ずかしながら私は全然気づけなかった。むしろそんなのお構いなしに「テニス、テニス」です。娘を誘い、推薦で行けるテニスの強い大学を見学し、娘の活躍する姿を妄想していました。

娘のために必死で進路研究 でも娘は唐突に保育を志望

最後の試合も結果を残せずに終わった3年の8月、「もうテニスは頑張らない。勉強できなかったことも悔やんでいる。進学先はテニス以外で探す」と言われ…。そりゃもう大ショックでした。「じゃあ進路はどうするの？」と焦る気持ちもすごかったです。学校のパンフレットを大量に取り寄せ、学校研究に没頭。資格、学費、入試などを徹底的に調べ、いいと思う学校を娘に勧めました。でも娘は私の知らない大学の保育科を志望し、AO入試に挑戦。そのとき初めて娘が保育分野に興味があることを知りました。結局、AO入試は不合格となり、指定校推薦の中から選んだ大学の保育科に進学を決めました。これからは少し距離を置いて、冷静に娘を応援するつもりです。

テニスがどんどん上達し、周囲からちやほやされる娘に鼻高々だった私。一生懸命サポートするうちに、自分のほうがテニスに夢中になっていました。私の期待にこたえようと、娘も「テニスをやめたい」と言い出せなかったのかもしれません。娘の気持ちにいち早く気づき、「テニスをやめて勉強すれば？」と言ってあげればよかったと反省しています。

子どもはこう思っていた！

自分のことのように熱中してしまう〝母に困惑〟

2年になる頃にはすでに、テニスのスポーツ推薦以外で進学の道を模索していたのですが、母はいつまでも私が大学でテニスを頑張り続けると思い込んでいました。だから3年の夏に思い切って「大学ではテニス以外の道を考えている」と伝えました。母がショックを受けているのはわかりましたが、聞いてくれて心底ほっとしました。

でもそのあと、自分で勝手に大学を調べ始め、勧めてきたのには本当に困りました。私が調べて受験した大学も母は「そんな学校でいいの？」と一言。カチンときましたね。娘のためになんとかしなきゃと焦るあまり、娘の気持ちを無視していたというか…。何回か頭ごなしに言い返されて、「進路の相談はできないな」とあきらめました。ずっと一番近くで支えてくれた母と、進路も一緒に考えたいと思っていただけに、寂しかったです。

CASE 4

寡黙な息子の行動についつい口を出しイライラされて壁に穴があく事態に！

［私立大学文系学部に一般入試で現役合格した息子を持つKさんの場合］

息子は高校受験の時、志望校に落ちてしまい、不本意な思いをしました。その挫折感をバネに、高校入学当初から有名私大に入りたいと決めていたようです。私も「今度こそ行きたい学校に行かせたい」と思っていました。

1年の終わりには「受験があるからサッカー部をやめたい」と言い出しました。私は人間関係にヒビが入らないか、勉強一色でいいのかと心配で。でも担任の先生には「受験一筋に頑張る高校生活もアリですよ」と言われ、夫も「目標があるならいいんじゃない？」と言うので、それ以上悩むのはやめました。

受験本番は不安が消え子どもの身になって励ませた

サッカー部をやめてからは、勉強を頑張っていた息子。もともと寡黙でしたが、本当にしゃべらなくなり、何を考えているか、外で誰とどんな話をしているかまったくわからず。おしゃべりな男の子のお母さんがうらやましかったです。

あと3年の秋になっても受験の選択科目が世界史と数学どちらなのか決めなかったことにもハラハラ。「どうするの？」「なんで決めないの？」とつい文句を言っていました。結局11月頃、成績から判断して世界史に決定。今思えばかなりうるさく感じていたんでしょう。

ある朝いつものように「早く学校に行きなさい」と言ったら、「ドンっ」という音。玄関の壁に穴があいていました。驚きましたが、知人から「うちは3つあいてる」とか聞いていたので、「とうとうあいたか…」と意外に冷静でしたね。

受験が迫ると「もしダメでも浪人すればいいんだから」と、今までの不安や焦りが消え、むしろホッとしたのを覚えています。受験校のリストを見て、「どの学校に行くことになってもすごいと思うよ」と伝えました。親が過剰に期待してプレッシャーを感じてほしくなかったからです。ありがたいことに、第一志望校に受かり、家族で喜びました。本人はクールにふるまっていましたが。

●

息子のやることなすこと、「これでいいのか」とピリピリし、不安ばかりでした。「なるようにしかならない」と腹を決め、ゆったりと構える心の余裕があればよかった。でもなかなか難しいことですよね。

子どもはこう思っていた！

親に話さないのは自分を“さらけだすのが嫌”だから

高校受験は大失敗。二の舞が嫌で、大学受験は早めに頑張ることにし、サッカー部はやめようと決めました。四六時中、受験が気がかりなのに無理に続けても仕方ないと思ったからです。

入試の選択科目は、たぶん世界史にするだろうと思っていましたが、数学は経済学部や商学部に進んだら入学後も必要なので、ぎりぎりまで勉強すると決めていました。親は進路のことを好きなように決めさせてくれました。それは感謝していますが、「勉強は大丈夫？」とか「早く学校へ行きなさい」と言われるのは辛かった。イライラがピークになったとき、一瞬切れて、壁に穴をあけちゃいました。自分でも「しまった」と思いましたね。親が嫌いなわけではありません。うまく説明できないんですが、親の前で自分をさらけだすのが嫌で、距離を置いているのかもしれません。